

弥栄地域協議会と議会との意見交換会記録

令和 3 年 7 月 26 日（月）
18 時 30 分～20 時 08 分
弥栄会館 研修室

【出席議員】西川議員、沖田議員、川上議員、笹田議員、永見議員、川神議長

次第

1 開会

2 地域協議会会長挨拶

3 議長団挨拶

4 自己紹介

5 意見交換

テーマ：ふるさと体験村について、弥栄の将来について、議員の弥栄への想い
について

6 地域協議会副会長終わりの挨拶

7 閉会

【議事の経過】

〔 18時 30分 開議 〕

1. 開会

笹田議員	ただいまから弥栄地域協議会と議会との意見交換会を開会する。 私は本日の司会進行を務める笹田という。よろしくお願いします。 初めに1点お知らせがある。今日の意見交換会の記録及びはまだ議会だより等の掲載のための写真を撮ることをご了承願う。
------	---

2. 地域協議会会長挨拶

笹田議員 会長	弥栄地域協議会会長にご挨拶いただく。 本日は大変お忙しい中、議長を初め多くの議員にお出かけいただき、厚くお礼申し上げます。 皆はご承知のとおり、我が弥栄町は少子高齢化が急速に進み、高齢化比率51.1%、出生数にあっては6月末現在1名となっている。集落活動もままならぬ集落もあるが、住んでいる地域住民は我が事として一生懸命頑張っている。 今年度、「弥栄のみらい創造会議」というまちづくり推進委員会を設立し、4つの部会を組織して部会ごとに事業計画を作成した。やさかグリーンパーク部会はふるさと体験村の企画書を作成する部会であり、4月から6月末までに16回以上の会議を精力的に重ねられ、先日の臨時総会において承認を得られたところである。 この後、ふるさと体験村を含めた三つのテーマについて議論を交わさせていただく。今回の意見交換はあくまでも浜田市への要望をさせていただく場ではなく、弥栄の地域課題などを議員と共有し、解決の糸口等を見つける重要な機会と捉えているので、忌憚のないご意見をいただくようお願いする。 甚だ簡単だが、開会にあたり挨拶とさせていただく。本日はよろしくお願いします。
------------	---

3. 議長団挨拶

笹田議員 川神議長	川神議長からご挨拶申し上げます。 まずは今日、弥栄地域協議会の皆と浜田市議会との意見交換会をする機会を与えていただいたこと、まずもって感謝を申し上げます。
--------------	--

ご存じのように、我々は議会基本条例をつくっており、その中には地域住民の意見をしっかりと聴き、それをしっかりと市政に反映しなければいけない義務を持っている。そのためには市民から率直な生の意見を聴く、そのための機会を今までは井戸端会や議会報告会を弥栄地域でもさせていただいたが、コロナの問題に関しては、皆にはワクチン接種を含めご協力いただいて感謝しているが、このような状況の中、なかなか思うように意見聴取ができなかったため、特に地域協議会と市議会との意見交換会をもって地域課題を拾い上げるために企画し、お集まりいただいた。

今日はオブザーバーに地元議員の串崎議員も来てもらっている。さらには中山間地域振興特別委員会、これは特に周辺部の課題について重点的に審議するための委員会である。議会は今まで以上に周辺部に関する配慮をさせていただいてきている。

そのような状況の中、先ほど三つの大きなテーマという話をされた。ここで議論という前にまずは現状をしっかりと聴かせていただき、市政の遂行にも議会運営にも役立たせていただこうと思っている。

ふるさと体験村については今までもいろいろあった。議会からもさまざま意見をいただいているが、今日は最新の現状を聴かせていただこうと思っている。我々は決して、この問題に反対だと思っているわけではない。まずは組織、この施設ありきではなく、弥栄にしかできないことがたくさんあると思う。それをしっかりと出させていただき、我々はそれをしっかりと応援したいと思っている。その中でどのような形でかわるか、まずは弥栄の強み、皆さんが弥栄をこうしたいという思いをまず聴かせていただきたい。

今日はしっかりと、皆の意見を受けとめて帰り、必ず反映できるよう努力していく。よろしくお願いします。

4. 自己紹介

笹田議員

皆と意見を交わす議員の自己紹介をさせていただく。

《 以下、議員の自己紹介 》

笹田議員

続いて、地域協議会委員の皆にも一言自己紹介をお願いします。

《 以下、地域協議会委員の自己紹介 》

5. 意見交換

テーマ：ふるさと体験村について、弥栄の将来について、議員の弥栄への想いについて

笹田議員 | 今回は、いただいている三つのテーマで意見交換をしたい。

ふるさと体験村について

笹田議員 | 企画書があるので、それについての説明をお願いします。

委員

ふるさと体験村は4部会に分けて構成しているが、その中のグリーン部会がふるさと体験村の担当になっており、私はその部署に配属されている。大変なところである。皆ご存じのように、長年休館状態が続いており、それをまた再建する、新たにスタートとなってもゼロからスタートどころかマイナスからスタートという非常に厳しい部署である。これまで何度も会合を重ね、やっとここまでこぎつけてきた。

弥栄にとってふるさと体験村は、なくてはならない施設である。あの施設の中には弥栄のいろいろな文化、食に関しても伝統や先人がつくり上げた知恵が詰まった施設である。そこを頼りに住民は活動していたが、休館したばかりに灯が消えたような状態が長年続いてきた。

アンケートを取ってみるとやはり、早く再建してほしい、何とかならないか。市にもお願いしやってもらった。業者にもやっていただけるのではといろいろ工夫したが、どうしても結果が出てこなかった。いよいよ最後のとりでというか、やるからには地元住民全員であの体験村をやっていかねばならないのでは、ということになった。この機会を逃せば、本当にふるさと体験村は戻ってこない。そうなれば弥栄は沈没したも同然である。あのすばらしい自然、文化が詰まったふるさと体験村を残すことによって、皆生きがいを感じ、若い世代に引き継いでいける、一つの場所であり施設であると考えている。何とか住民一丸となって再建に向かうつもりである。何とか協力をお願いします。内容は担当者が説明する。

説明者

企画書に基づいて説明させていただく。

(以下、資料をもとに説明)

●46 : 52

長くなったが、こういった思いでふるさと体験村の企画書を書かせていただいた。非常に厳しい状態なのは認識している。ただ、人口1200人以下の小さなコミュニティの中で、子どもが3人いる。子どもの友だちはもうちょっといる。彼らに何を残してやれるかと思っ

笹田議員

た。これは弥栄だけの話ではない。浜田市全体でもそうだと思う。弥栄というこの小さなコミュニティの中で一致団結して地域が、これから子どもたちに何を残してあげたらよいのかと思ったときに、きっとふるさと体験村という器はすごく重要だと。浜田にないところがいっぱいあると思う。浜田の子どもたちとここでいろいろなことができるのではと。弥栄で千人くらいでやれることなら、浜田1町内が公民館でこのようなことをやろう、などということができてくるのではと思っている。弥栄で一番最初に、地域が一丸となってできることの意味に、ふるさと体験村が必要であると思っている。

委員

先ほどイベントについて地域協議会の方からお話いただいたほうがよいという説明があったが、委員から意見があればお願いします。

関係人口という言葉が最近よく言われる。ふるさと体験村を弥栄のランドマークに位置づけ、弥栄の関係人口を増やしていく。我々は任意団体として首都圏のオーケストラを隔年で招待しコンサートをやっている。首都圏から来てくれる人にふるさと体験村に泊まっていたいただき、あそこは自炊もできるので自炊して楽しんでもらっている。その皆の意見を聴くと、首都圏では仲間内で合宿のように過ごすことはなかなかできないと。我々の目から見ると曇っているようでも、彼らに言わせると星空がきれいだと言ってくれる。そういう環境もあるので、それを利用してぜひ関係人口を。口コミで広がるのは大変貴重なことだと思っている。そういうのでもふるさと体験村を役立てていければと思っている。

笹田議員

委員

ほかに。

私もグリーンパーク部会のものだが、イベントについて答える。最初の1年は初めてのことで手探り状態。地域の方に協力してもらおうと思っている。高齢者は昔のことをよく知っておられると思うので、そういうことを若い世代に伝えていくのがよいと思って、そういうイベントを設けたいと思っている。

2年目からはなれてくると思うので、今はとめている食事系のイベントを入れて伝えていきたい。

2年半か3年目からかはわからないが、浜田市内でいろいろつくっている方にも協力してもらって、全体的に学びたい、遊びたい、そういう形にしたい。

ふるさと体験村の周辺は自然が多いので、ハイキングもできる。

笹田議員
委員

その辺にも興味を持ってもらえるし、最近は浜田から自転車で上がってこられる方も多いので、そういう道を開くこともできるのではと思っている。

ほかの方の意見も聞いてからでないと、ほかにも多分いっぱいあると思う。何をしていくかはこれからだが、一応そういう計画にはなっている。

ほかに。よい機会なのでぜひ思いを言っていたきたい。

この企画の中に、大学に相談に行つてそこでも特に関係人口をつくっていかうと。人口の少ないのは仕方ない、関係人口さえつくっていけばそれほど寂しくないのではないかと。ふるさと納税みたいな形で、広く関係人口を増やしていかなければならない。その中でうまくいけば定住につながる方もいるだろう。そういうことを一生懸命大学と一緒にやろうということで、二度ほどお伺いを立てにいき、早速9月から18名お願いしたいと。このことはまだ皆に報告していないが、18名は入つてこられる。日帰りで。それを一つの足場としてオープンしたら続けて、一緒に勉強しようということで先生から声をかけてもらっている。何とかいろいろな活動を、大学生を交えてやっていけたらと思っている。

委員

弥栄町にとってこのふるさと体験村は、どうしても必要不可欠と認識している。弥栄といえばふるさと体験村があるところ、というように今までは思っていた。皆も恐らくそう思っていた。浜田から来られた議員にも「こういう施設が必要だ」という言葉を何度も聞いていた。しかしご存じのようにあのようなことになり、やむなく閉鎖された。しかし企画書のように、小さいころからあったふるさと体験村をどうしても自分たちが運営していきたいという若者が増えてきた。周りを見ると、地域の中でもふるさと体験村があれば自分ならこうする、子どもがいれば利用させたいという声をたくさん聞く。あのような施設はいらないという声も少しは耳にするが、大方の人は好意的である。そういう中で再開に向けて取り組むわけだが、こうして今日議員にお出かけいただき、弥栄町のふるさと体験村をどうするか、皆意見を言っている。議員の気持ちを伺いたい。

笹田議員

これはあくまでも意見交換会であつて議会ではないので、皆の思いに対してお答えしたいと思うので、その辺はご理解いただきたい。

先日、委員さんと少し話す機会があり、そのときにも言わせてい

ただいたが、私も海の関係の仕事をしており、ライフセービングをしている。12月の納会はいつもふるさと体験村の古民家に家族全員で泊まって、よい思い出をした記憶がある。雪が多くて、浜田ではなかなか雪を見ることがないので、子どもたちは放っておいてもその雪で遊んでくれていた。車も来ないので大人も安心して囲炉裏を囲んで酒を飲んだ。このように浜田の市街地に住む者から見ても、よい施設だという印象が残っている。

ただ、休止になってからはそういう経験もしていない。そういう思い出も含めて弥栄の方の復活させたい気持ちは伝わっている。どうすればそれが現実的なものになるか、皆お考えだと思うので、我々も少しでも協力できる形で意見交換をさせていただきたい。議員から何か意見があるか。

川上議員

いただいた話は、持ち帰ってまた検討させていただくと思うが、その前に。私は金城の波佐に生まれている。波佐公民館には昔の写真があるが、私の家はその中で一番悪かった。家は悪かったがよかった。自分らが生きてきた場所は非常に大事である。ふるさと体験村に対する皆の思いは重々お聴きした。自分としてはそれを受けとめて持ち帰りたい。

永見議員

皆の熱意を十分聴かせてもらった。住民主体でされるというのは大変よいことだと感心した。イベントについても熱意を感じた。内容を議会に持ち帰り、検討したい。

沖田議員

ふるさと体験村への皆の思いは重々承知している。ただ少し厳しいことを言わせていただくと、聞いて何となくわかった、ではだめなのだろうと私は思っている。ただ、皆、国府の朝市にも来られて弥栄のいろいろな品物を披露されて、私はそういう草の根的な運動は非常に大事ではないかと思っている。そういう積み上げで、ふるさと体験村が浜田市民にとって、決して900万円の指定管理料は高いものではない、残していこうではないかという機運に持っていただきたい。今後とも皆の活躍を、個人的に期待している。

西川議員

熱い思いを聴かせていただいた。弥栄は人の心が温かいところだといつも思っている。事業計画も説明いただいたが、持続可能にしていくためには、浜田市としての施設という考えを浜田に持ってもらい、浜田市として大事にしていくスタンスがないといけない。今1200人のコミュニティという話だったが、少し大きな考えでやってい

笹田議員

かないといけないと感じている。

各議員から意見を言わせていただいたが、西川議員が言われたように私の個人的意見を言わせていただくと、この状況で議会に上がってきたときには、率直に申し上げると相当厳しいと思う。浜田市全体の施設だということを、弥栄町民だけでなく全体に取り込んでいく動きが必要ではないかと思っていて、例えば、教育は弥栄の教育ではなく浜田市全体の教育と捉えていくとか、イベントも浜田市全体のイベントとしてやっていく形で、浜田にとって絶対に必要な施設なのだとすることを浜田市全体で考えていく形にならないと、弥栄の方だけで頑張ろうとしても厳しい。そのように捉えられる可能性も十分あることはご理解いただきたい。浜田市全体としてこの施設は大切にしていきたい、この施設は必要なのだ、だから2千万円の修繕をして1千万円の指定管理料を出しても、浜田市の宝だからと言われるような企画・計画が必要になってくるかと思う。そのあたりも考えていただけたら。我々も一生懸命やっていくのでよろしく願います。その件で何か意見があれば。

委員

厚かましいことをお尋ねするが、浜田市の大切な施設、山際にある素朴な施設というイメージを持つためには、どのような方向から取り組んでいったらよいか。私は本当に勉強不足でわからないので、お知恵を借りたい。

笹田議員

議会全体の話ではないので申しわけないが、私は教育ではないかと個人的には思う。どこにもない自然があるというところで。岡山から出てきて、子育てにはすばらしいところだとの意見もあったし、浜田市の子どもたちに弥栄のここを経験させてあげたいというものがあれば、スクールバスもあるし、そういう形で教育委員会も巻き込んでそういうことをやってみるとか。

教育はお金がかかるが収支を取らなくてもよい。子どもの教育はお金になることではない。そこを浜田市全体として考えていただくのも一つの手ではないか。

もう一つ、どぶろくという強みがあるので、そういうものが本当に収支としてプラスになっていくのであれば、なおさらこの地域の宝となるし、もっと違うイベントや新たなイベントも生まれてくるのではと個人的には思っている。

これは議会全体の意見ではなく、私としては弥栄の強みは教育で

委員
委員

はないかと感じている。

参考にさせていただき、また検討する。

ふるさと体験村の後ろの山のほとんどが市民の森である。この自然を有効活用というか、間伐や枝打ち、全てをイベントに組み込んでやっていこうという考えでいる。間伐した木で車庫をつくり、持って帰って組み立てるというところまでやるイベントなど、いろいろ考えている。どのようなことをやったらよいかと皆に問えば、50も60もあるので、それを整理するのに、いただいた意見が勉強になった。どういう方向へそのイベントを向けていけばいいのか、非常に勉強になった。感謝する。

笹田議員

1年目からきちんとできることは少ないとは思いますが、目的を持ち、このような取り組みをしたいという思いがあれば、私は一つでも二つでもそういう形はできると思うが、いかんせん、ふるさと体験村はいろいろニュースが流れたりしてマイナスイメージがついている。それを払拭するくらいの何かしら仕掛けやイベントが必要になってくるのではと思う。

議会の話をすると、以前ふるさと体験村の予算が出てきたときに私は修正動議まで出して反対したことがある。というのも、あのままで計画を出したとしてもやはり絶対難しいという判断をしたためである。あの計画では生き返らないと思ったので。ただ、執行部も2か月後には予算を取り下げて、休止を判断された。やはりあの計画では甘いと、当時を思い出しても思うので、あれを超える何かがないと、浜田市の宝として運営していくのは難しい。

今回は皆がこうして一つになってされているというのが前回と違う。それプラス何かないと、賛同は難しいと個人的には思う。

川神議長

私も個人的な意見を一言だけ言わせていただく。基本的に議会は費用対効果を求める。幾ら投資したら幾らのリターンが誰に返ってくるのかは基本である。これは税金を適正に使うための当たり前の考えである。それを議会が審議している。

ただ、費用対効果の効果が何かをしっかりとお考えいただいたほうがよいと思う。投資して返ってくるのはお金だけではない。ビジネスなら投資にお金のリターンすれば成功だが、投資して住民もしくは関係人口の方が何を得て帰るのか。これが大事だと思うし、きちんと感じられるものであれば我々も十分理解する可能性はある。

私は以前から「弥栄は命を教育する場所にすればよい」と言っている。私はPTAが長かったので子どもたちに向けて、あそこへ一日住んで、生き物にしっかり触れるのはどうかと言ったこともある。そういう貴重な体験は費用対効果の効果に当たる。お金ではない。幾ら投資したら幾らの収益ではなく、子どもたちにどんな効果をもたらせるのかが、明確に伝わってくるようなものなら、人の心が動くと思う。

一方で教育はICTが先端をいっているが、これは個人的にも、弥栄はワーケーションの場所になるべきだと思う。そのためにはかなり精度の高いWi-Fiを整備しなければならないということは、昔から思っていた。それを使えば、どこかの企業が弥栄に住んで交流する可能性もある。これはふるさと体験村にかかわらず、弥栄の強みをまずはしっかり皆に理解してもらい、それを共有していただければ、それがたまたまふるさと体験村で実現するという流れであると、そうだろうと思う。

議会ですべてをいろいろ考える人間は、ありきで考えるとどうしてもいろいろなハードルが高くなってしまふ。どこでそれをやるのかという、次の段階でそういう話が出るのが、スムーズな考えなのだろう。

私は賛否を言っているわけではない。浜田市全体の施設として誰からも愛されるものを目指す取り組みをするべきなのだろう。いろいろ議論したり考えたりすることはあるだろうが、これは何となくでいっても何となしの結果に終わる気がしている。

もう1点、住民の理解というのはとても大きい。ガソリンスタンドのときもいろいろ話して、私も大分言われた。「お前が反対しているのか」と。そうではない。どのようにしたら最終的に継続的に、ここにその施設が続くのかということをいろいろ研究したり、聞いたりして時間がかかった。そのときも、住民はどう思っておられるかと。今回も一部はそうだろうが、多くの方が「これをこのようにしたい」という、住民の結束が住民自治の基本中の基本だと思っている。あったほうがよい、ではなく、これはこういう意味でなくてはならないという住民の声が伝わってくれば、また議会もどういう判断をするか、というところである。

あと二つテーマがあるが、ふるさと体験村の話が少し長くなったので、とりあえずここで終了させていただき、次に移る。

笹田議員

弥栄の将来について

笹田議員	テーマの中身だが、弥栄は風光明媚なところだが、少子高齢化や風力発電計画、消防署の統廃合の話が出るなど、いろいろな不安や問題を抱えており、議員と情報共有をしたいと伺っている。この件に関して委員から何か意見があれば先にお願ひする。
委員	浜田市景観条例が制定されている。その中に、浜田市景観審議会というものが設置されており、今いる弥栄のメンバーの中にもその委員がいる。風力発電施設は景観には極めてよくないと。かつては山並みがきれいだったのに、今は障害物が、ましてや夜になると赤く点滅して異様な状態である。それを審議会が訴えたと聞いているが、その訴えは何も反映されていない。 このたび浜田市は風力発電に関するガイドラインを策定された。その中で私が一番気がかりなのは、住民説明会の項目に、「新施設を行おうとする場所から1キロメートル以内に存する自治会等に対し」と限定された。景観とは、施設から1キロメートル内だろうが外だろうが見える。このガイドラインでは地域住民の範囲がかなり狭く決められてしまった。自然破壊や音などについて学者がいろいろな説を言っている。景観については全体に影響があるのに、説明会に来て意見も言ってもだめだと。これは弥栄住民から見ると、この暑い中、毎月1回草刈りされてきれいな景観がある、その先に弥畝山がある、しかしそこに異常なものが建設されている。なおかつそれを連続で建てていこうという計画が進行している。景観という視点で再度検討してもらいたい。
笹田議員	風力発電と景観についての意見だった。議員からは。
永見議員	よくわかる。中山間地で自然が大事だと、景観についても大事なことだろうと思っている。持ち帰って皆と話し、執行部にも話をさせていただきたい。風車から1キロメートル以内で事足りるものではない。そのあたりも十分確認しながら、また持ち帰って検討させていただきたい。
委員	当時審議会で、急遽その話が出た。何のことかわからないので地域協議会に諮ったのだが、今建っている風車はどうして建ったのかと聞いたら、それはきちんと風車ができるという説明を当時の役場で受けた。しかし職員が勉強する場がなかったので、電気がただで

起きればよいではないかという軽い気持ちで承諾したと言われた。

そういうことが今後絶対にあってはならない。議員も、新しいものができるならこれによって住民がどのように迷惑をこうむるかということを勉強された上で、いろいろ審議していただきたい。今は風力でなくても小規模の水力で幾らでも電気は。ぜひその勉強をよろしく願います。

川上議員

私は金城の波佐で、一番奥の若生には確かに風力発電の塔が建っている。当時はそういうことで建てられて、それ以降は環境省からかなり厳しい条件の中で建てられたと思う。こうして環境審議会等についても、市・県・国と3段階で審査されているよう。浜田市についてはどのような意見になるか今の時点では知らないが、しっかり審議されて進んでいると思う。そこに我々がどのように介在していくかはなかなか難しい部分がある。これについては、私どもとしては、意見は述べるが私どもがどうこうできるものではない、ということだけはご理解いただきたい。

委員

そう言われるが、環境アセスメントとはいわゆる事業者アセスと我々は呼んでいる。自分で問題を出して自分で答える仕組みになっている。おまけに風力発電が計画されるまでの間に、配慮書、方法書、準備書、許可書という経緯で進んでいくが、これを一般住民に、このような分厚い図書を、たった1か所、支所だけにしか置かない。それから事業所はインターネットで公開するのも1か月。ではなく全ての書類において今の時点でもそれが閲覧できる状況にしておかないといけないのに、全て1か月でインターネットでも見られない状況にしている。

それからこれだけ分厚いものを住民がどのように意見すればいいのか、という説明も一切ない。私はちょうど、明日環境課に相談に行こうと思っていた。そういう説明は誰がするのか。配慮書についてはどのような意見を言いなさい、こういう意見は言わないと環境審議会では取り上げてもらえない、そういう細かいことが違う団体との勉強会でようやくわかる。それを単にこの分厚い資料を置いただけで、一体何を審議する材料さえ乗せることができない。これをしっかりわかっていただかないと、段階を踏むといっても浜田市の環境審議会、それから私は益田も行った。ほとんど意見が出ていない。よくわかっておられる教授の方、大学教授であればかなり鋭い

委員	質問をされていたが、住民である一般の委員は、騒音のことがまず一つ、水質への影響についてが一つ、土砂災害については今回の環境影響評価の中では全く相手にされない。森林法の中でやるのでこれは別物だと言われ、乗せられない。そういう縦割りの法の中でされていることに対して、住民の意見を言えるところが一つもない。だから私は、環境アセスの中できちんと審議されるというのは、十分ではない。住民意見も全く入れないということを、ぜひもう少し理解し、勉強していただきたい。 それから、浜田市長の意見が結局は、県の県知事意見に反映される。一番は浜田市長なのである。国が幾らやると言っても、浜田市長がだめだと言えば許可されない可能性は極めて高い。だから我々は請願を出したのである。今、どんどん建とうとしているので、もう少ししっかり学習していただきたい。よろしくお願いします。 私、県の審議会にも行っていたときに当時の部長が、風車を建てないようにするには地権者がストップをかけない限りは、幾ら行政が言ってもとまらないと言われた。だからそういう仕組みをぜひ、どうにか変えられるように勉強してほしい。
笹田議員	今いただいた意見を議会に持ち帰り、しっかり協議したい。

議員の弥栄への想い

笹田議員	弥栄は中心地と離れており、どうしても置いとかれ感がある。議員の弥栄に対する想いを聞かせていただきたい、というのは率直な意見だと思う。各議員に聞いてみたい。
永見議員	この弥栄地区は中心部からかなり離れていて、市役所へもかなり時間がかかることは十分理解している。このような状況の地域は浜田市全体でもあちこち点在しているのでは。 この4月から自治区制度もなくなり、自治区長もおられなくなった。地域の声も届かない状況もあろうかと思う。地域がさびれ、置いとかれ感があるという思いは、旧町村では多くの方が持っている思いだと私も思っている。 そのあたりの解消に向けて協働のまちづくり条例を制定するなど、いろいろ取り組まれているし、また副市長が月に1度各地域を回り、地域の声を聴き対応するよう取り組んでおられる。弥栄にも月1回は来られて皆の思いは多分お聴きになっておられると思う。対応され

沖田議員

ているのではないかと想像する。そのときにこの、置いとかれ感についても副市長へお話しいただければと思うし、置いとかれ感は弥栄だけでなく旧郡部で同じように思っている方は多分にいると思う。いただいたご意見は十分理解させていただく。

率直に言いたいのはライスバーガーがおいしい、これは間違いない。お米もおいしいし自然豊かである。

先ほど置いとかれ感の話になったが、人口減少、過疎化というのはどこも同じだろうと思う。そこで消えていかないということ。となれば存在感なのだろう。私は国府出身である。漁業を支えるのは豊かな森林があって、初めてブランドになる魚ができる。海だけが活躍しているわけではない。やはりそこは一体感を持ってやっていけたらと思う。

その一体感も口で言うのは簡単だが、時間もかかるし、難しい問題だと思う。今できることで、朝市に來られて野菜などを売られている。そういう地道なことかもしれないが、お互いがお互いのよいところを披露し合って、認め合って発展して行けたらと思っている。置いとかれ感を持たずに一緒に頑張っていけたらと思う。

川上議員

申しわけないがやっとこれで、創造体系ができて杵束と安城が一体的になるのかなと。4月からやっているのだから今から育っていく部分だろうと思う。今こうして一体として動いているが、もっと熟成する時期をしっかりとつくっていただきたい。やっと弥栄は一つだという思いが出る形にしていきたい。

なぜこれを言うかという、グリーンパーク部会、これを見るとごらんのとおり部会の中に杵束の方が2人しかいない。

委員

私もいる。

委員

私も元は杵束である。

川上議員

杵束と安城が一つになって、弥栄として生きて育っていくとよいと思う。

もう一つ、関係人口についてだが、遠くの関係人口よりも近くの関係人口と言われている。弥栄から金城・雲城・三隅・井野・長見というところの関係人口から始めて、そこのつき合いをしっかりとやっていただくのが大事だと思っている。金城から弥栄に來られる方もいる。私の親戚も杵束にある。非常に近い親戚である。近くを生かしていただき、それでやっていけたらと思っている。

西川議員

自然も豊かで人も温かくて、本当にすてきなところだと思っている。弥栄だけでなく合併によって金城・旭・三隅も一緒になったが、合併当時、私はUターン直前でいなかった所以議論は知らないが、自治区制度がなくなる際にいろいろな議論がある中で、ちょっとどうかと思うところがあって、各地域がそれぞれの特徴を生かして発展するべきだと思っている。弥栄以外もそれぞれのよいところを生かして発展するべきだと思っている。

川神議長

弥栄にしかないものは何かというのを見つけて。たくさんあるだろうがあれもこれでもでなく、これで勝負するという背骨になるものが、仮に先ほどふるさと体験村の提案があったが、住民が納得して、何に一番特化するのか決めるべきだろうと。それができると、弥栄地域のエンジンを手に入れることができる。もう浜田だが、そういう意味では、目に見えない境界線がまだある。それを取っ払って、浜田の中の施設、浜田の中の弥栄地域の中での強みというものを、住民の支えをいただいitてつくっていくことが大事だろう。

あと課題とすると、どうしても心配なのは学校問題、医療問題に関しては、どういう方法で解決するか、これは議会でも喧々諤々やっている。そういったことも地元の、現場の意見を聴きながら取り組んでいきたいと思っている。

笹田議員

最初に謝っておきたいのが、私は初めて議員になったのは35歳だった。今47歳になるが、35歳になったときには今とは全く違う考えだった。住むところが不自由ならまち中に住めばよいという人間だった。それが変わったのは地域に出向いていろいろなところへ行った。意外なところにまで家や田んぼがあることを、1期目にいろいろ勉強した。こういう地域を頑張って守られている人に対して、私はどれだけ失礼な思いを持っていたのかとすごく反省した。

自治区制度廃止の際、私は反対した。今のまま廃止しても地域は絶対よくならない、延長だと言わせていただいた。というのも、どの季節に行ってもきれいなのである。雪があろうが春だろうが夏だろうが草刈りもきちんとしてあって。あのようなことは30代では気づかなかったのかもしれない。今は反省して、すごくすてきな土地柄だと思っている。それを守るために自治区制度ができたにもかかわらず、廃止するというのは絶対だめだと猛反対した経緯がある。

とはいえこのような形で自治区長もなくなっている。地域協議会

も含めて地域が一つになる形が、今後発展していく上で一番大切なことかと思っている。そういった意味では、弥栄も浜田であるので、もし我々にできることがあれば、地域を守るために一緒になって考えて、市に提言していきたい。それは多分皆同じ思いだと思うので、弥栄の議員だけではなく浜田の議員もそのように考えている議員がいるということをお忘れなく、一緒になってまちづくりをやりたいと思っている。今後ともよろしくお願いします。

6. 地域協議会副会長終わりの挨拶

笹田議員

最後に副会長から閉会のご挨拶をいただきたい。

副会長

本日は大変有意義な意見交換ができただろうと思っている。議員にもこうしてお出かけいただき、住民の生の意見を聴いていただき、大変ありがたかった。ふるさと体験村の話が大変長くなり、本来まだまだ事前に話をした中では、言いたい意見があったのだが、今回実質1時間ちょっと。2時間、3時間、時間をつくっていただければ、もっと意見を述べてみたいとは思っているが、ふるさと体験村についても貴重なご意見をいただき、今後の企画を練るのに大変大きな参考にさせていただけると思う。

今後も、まだまだ言い足りないことがあるので、また時間をつくっていただき、またこういう機会をつくっていただければと思っている。お礼申し上げる。

笹田議員

浜田市議会では各地域協議会へ出向いて意見交換会をしている。各協議会から、やはりよかったという意見をいただいております、これは継続してやっていくべきものではないかと議員も思っているのですが、もっと意見をお聴きしたいし、聞かれたことにどのように答えるか、考えながら答えたが、今後もこういった形で協議会を通じて意見交換会ができたらと思っているので、今後ともよろしくお願いします。

7. 閉会

笹田議員

今回の意見については議会へ持ち帰り、今後どのように進めていくのかを、議員全員で協議したい。改めて皆にはお返ししたいと思う。以上をもって弥栄地域協議会と議会との意見交換会を閉会する。

〔 20時 08分 閉議 〕